

発行所  
動物資料展示館  
旭川市  
旭山動物園  
☎ 36-1104



キングペンギンの散歩がはじまりました  
11:30と14:00の2回行います

# ASAHIYAMA ZOO



野生の動物たちは、自然の中で同じ種類の動物たちだけで生きているのではあ

あざらし館で新たな試みが始まりました。それはオジロワシの展示です。オジロワシやアザラシは流氷がやってくる頃に北海道にやってきます。野生ではアザラシとオジロワシは

## あざらし館にやってきたものは...

あざらし館で新たな試みが始まりました。それはオジロワシの展示です。オジロワシやアザラシは流氷がやってくる頃に北海道にやってきます。野生ではアザラシとオジロワシは



時間は13:30~不定期にて実施

## 新たな試み 間近で見られるタカとトビ

今年の冬から、ワシ・タカはもぐもぐタイムから「ワシ・タカを学ぶ会」にグレードアップしました。実際にワシ・タカの飛び姿を観察し、飛び方の違いや、エサの取り方の違いなどを学ぶことができます。間近で滑空するトビを見て「スゴイ！」だけではありません。

旭山動物園では、家畜（人間が改良した動物、ペットなど）と野生動物をはっきりと区別して展示しています。そのため、ワシやタカを人間の手にのせて行うガイドには矛盾があるようにみえるかもしれません。本来ならば、これらの動物は野生で暮らせるのが一番いいことなのでしょう。事故などにより野生復帰ができなくなってしまった鳥たちをそのまま飼育することよりも、もっとできる何か考えたのです。タカやワシが飛び姿を間近で皆さんに見てもらうことで、得られるものは多いのではないかと。鳥の飛行における体の構造やその素晴らしさを感じてもらい、命を感じてもらいたい。少しでも人間による事故や環境破壊、それらからの犠牲を減らす力へ繋げられるようお願いを込めて行っています。

## おしえて！ どうぶつえんのお仕事

飼育展示係のお仕事は動物の世話だけでなく、動物たちの素晴らしさをみなさんに伝えること。そのためにいろいろな工夫や思いが数多くあります。なかなか見えない飼育係の思いや日常のお仕事をこのコーナーでお知らせします。



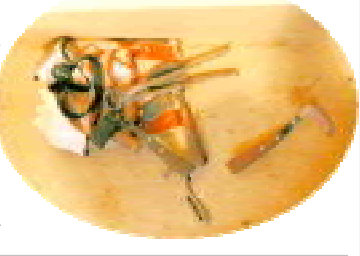
この日も牧場ではポニーの蹄を削っていました。さて、削蹄とは一体どういうことでしょうか？これはどうやら「爪切り」のようです。皆さんも爪が伸びるように、ポニーも蹄が伸びます。これを削り取るのを削蹄といいますが、ウマにとって足はとても大切な部分。体重を支える細い足に何かあると体の他の部分にまで負担がかかります。もし、足にあわぬ靴でグラウンドを走るとしたら、なかなかうまく走れませんね。ポニーもうまく歩けるように、手入れが必要なのです。



左が削蹄前・右が削蹄後

また、その時に獣医さんとともに健康状態をみて栄養管理なども行います。定期的に行っているため、じっくり観察できるわけです。けれど、ポニーの健康を維持するためには、それだけでなく皆さんの協力が欠かせないといえます。子ども牧場のフジコが患っているのは「蹄葉炎」です。これは一生治ることがなく、ずっとつきあっているかなければならない蹄の病気です。その病気を少しでも和らげるため、夏場は足になるべく負担がかからないように放飼場に火山灰を敷き、毎日、足を水で洗ったりと、飼育係の工夫や悩みはつきません。そして何より大切なのが、栄養管理です。

## 先がくの字に曲がったものやおおきなハサミのようなもの いろいろな道具を使います



## ペンギンの散歩がはじまりました

旭川市の積雪は11cmをこえ、だいぶ雪も踏み固められてきました。そこでキングペンギンの散歩を行うことになりました。時間は11時と14時30分の2回です。天候状況や、ペンギンの体調によって行わないときもありますので当口園内の掲示板で確認ください



このように飼育係・獣医師・装蹄師の方の連携・そして皆さんの協力があってこそ動物たちの健康は保たれるのです。病気の原因の1つとも考えられる栄養の取りすぎは皆さんの協力がなく決して解消されません。動物園では動物一頭一頭の栄養を考えて、エサを与えています。そこへ誰かがさらにエサをあげたとしたら？もちろん食べすぎですね。ちよっとした気持ちで動物の健康を奪うことになりかねません。動物園の動物には決してエサを与えないでくださいね。